

(二〇一七年度)

## 6 国 語 問 題 (六〇分)

(この問題冊子は21ページ、三問である。)

### 受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

□  
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

まず西洋人の眼に日本人の罪の感覚があまり深刻とは映らない事実から考えてみよう。これは得てして西洋人が罪悪感をもつばら個人の内部の問題であると考え勝ちなのに対し、日本人にそのような考えがないことが原因しているのである。もちろん日本人が罪悪感を持たないなどということがあろうはずがない。ただ日本人の罪悪感、自分の属する集団を裏切ることになるのではないかとという自覚において、最も尖鋭せんえいにあらわれることが特徴的である。実は西洋人の罪悪感の場合であつても、その根底には裏切りの心理があると仮定することができるが、彼らはそのことをふつう意識はしない。これは彼らが古来何世紀の間キリスト教によって教化された結果、はじめ彼らの道徳意識の中でも重要な役割を演じていたにちがいない集団が神にとつて代られ、ついで近世以来この神も蒸発して個人個人の意識だけが問題にされるようになったからである。それでも精神分析の知見によれば、西洋人の罪悪感<sup>1</sup>は精神内部に形成されている超自我に背くことによつて生れる、というのであるから、裏切りの要素が全くなくなつてしまつてはなさそうである。もつともこの超自我はいわば精神内部の一機能であると定義されているのであるから、その中に両親の影響などもともと個人的ものが含まれていたとしても、その性格は本質的には非個人的なものである。したがつて彼らの罪悪感<sup>1</sup>の中では裏切りの心理が<sup>2</sup>痕跡に留まり、強く意識されることがなくなつているのである。

これにひきかえ日本人の場合は、上述したごとく、自分がそこに属している人たちの信頼を裏切るということに最も強く罪悪感を感じるのであるが、このことをいいかえて、罪悪感<sup>2</sup>は人間関係の函数<sup>かんすう</sup>であるといつてもよいであろう。例えば、相手が自分に一番近い身内殊に親の場合は、普通あまり罪が自覚されないが、これは両者が密着していて、どんなに裏切つても許されるという甘えがあるからであると思われる。しかし「死んで知る親の恩」というように、親の死後これまで抑圧されていた罪の意識が自覚されることはある。一般的にいえば、日本人は裏切りが関係の断絶に導きやすい義理的な関係の中で最も頻繁に罪悪感を経験する。したがつて前に説明した「<sup>3</sup>すまない」という言葉がその場合の罪悪感の告白として最もふさわしいものとな

る。なお罪の感覚そのものは、しては「いけない」ことを仕出かした時に始まるといえるが、しかし「いけない」ことをして「すまない」と思うのでなければ、内面的な罪の自覚とはならないと一般に考えられている。それ故「すまない」という罪悪感<sup>4</sup>は当然実際の謝罪行為に直結する。このように日本人の罪悪感<sup>4</sup>は、裏切りに発して謝罪に終るといふ構造を極めて鮮明に示しているが、これこそ実は罪悪感の原型なのであって、ベネディクトにこのことが見えなかったのは、まさに彼女の文化的偏見の故であるといわねばならないと思うのである。

以上のべたことと関連して、日本に関東大震災以来在住しているカトリック司祭ヘルマン・ホイベルス師が、日本ではお詫びがどんなに魔術的な力をもっているかがわかった、とのべていることは大変面白い。面白いというのは、日本人に罪の赦し<sup>5</sup>を説くべくやって来たキリスト教の宣教師が、日本人の間では心から詫びれば容易に和解が成立するということを知って、感心しているからである。恐らくこのことはホイベルス師ばかりでなく、それ以来の外国人にも気付かれていることなのである。そしてそのことこそもしかすると、日本人の罪の意識は乏しいという俗説の原因となつているのかもしれない。なお私がかつてアメリカのある精神科医から聞いた次のようなエピソードも、以上のべたホイベルス師の経験を裏書きするものである。彼はある時何かの手續上の不備で出入国管理局の役人に咎められた。彼は止むを得なかつた事情を縷々説明したが、きいてもらえない。ほとほと困り果てた揚句、「アイム・ソーリ」(I'm sorry)といったところ、急に相手の表情が變つて簡単に許してくれたというのである。この場合、彼のいったI'm sorryは日本語の「すまない」と決して同じではないが、役人がそれを「すまない」という謝罪と取つたことは明らかである。この話を彼は、実に日本人は不思議な国民だといいながら話したが、もちろんこれは西洋人の心理の不思議さについても同時に示唆しているといわねばならないだろう。というのは西洋人は、ベネディクトが罪の文化の住民と評しているにも拘らず、あるいは少し皮肉ない方をすれば、むしろ罪の文化である故に、一般にお詫びをしたがらない人種だからである。そのことは最近、海外経験者がふえるにつれて漸く認識されてきた事実なのである。

私はここでラフカディオ・ハーンが「停車場で」という随筆の中でのべている物語りを紹介しておきたいと思うが、それは日

本人の罪に対する態度を實に見事に描きだしていると考えられるからである。

この話は、強盜をしていったん擱まつた後、巡査を殺して脱走していたある犯人が、再び擱まつて熊本に護送されて来たところから始まっている。 駅頭につめかけた群集を前にして、護送して来た警部が殺された巡査の未亡人を呼び出す。その女の背には小さな男の子が負ぶさっていたが、その子に警部が語りかけて、これがあなたのお父さんを殺した男ですよ、と告げたのである。すると子供は泣きだしたが、引続いて犯人が、「いかにも見物人の胸を震わせるような、悔悛の情きわまつた声」で、次のように語りだした。「堪忍しておくんなせえ。堪忍しておくんなせえ。坊ちゃん、あつしゃア、なにも怨み憎みがあつてやつたんじゃねえんでござんす。ただもう逃げてえはつかりに、つい怖くなつて、無我夢中でやつた仕事なんで。……あつしゃア坊ちゃんに、なんとも申訳のねえ、大それたことをしちめえました。ですが、こうやつて今、うぬの犯した罪のことで、これから死に行くところとござんす。あつしゃア死にてえんです。よろこんで死にます。だから坊ちゃん、……どうか可哀そうな野郎だとお思いなすつて、あつしのこたア、堪忍してやつておくんなせえまし。お願えでござんす……。」やがて警部は犯人を連れてその場を立ち去つたが、するとそれまで静まり返っていた群集が「俄かにしくしく啜り泣きをはじめ、そればかりか附添いの警部の眼にも涙が光つていたというのである。

ラフカディオ・ハーンは以上の光景に接して深く感銘し、「どんな日本人でもその精神のうちの大部分を占めている、我が子にたいするこの潜在的な愛情、これに訴えて、罪人の悔悛を促したという点」に最も深い意義を認めている。彼のこの觀察は正しいであろう。ただ今一步解釈をすすめれば、この場合犯人は子供を可哀想と思うと同時に、自分も実はこの子供と同じくみじめであることを悟つたといえないであろうか。 彼はいわばこの際子供と同一化していたのである。大体「すまない」という言葉には、度々説明したように、相手の好意を懇願する意味が含まれている。「申訳ない」といつても同じことである。 それはいいかえれば、甘えられた義理ではないが、しかし許してほしいという意志表示である。 このように日本では、謝罪に際し相手に対し本質的には幼児のごとく懇願する態度を取り、しかもそのような態度は常に相手に共感を呼び起こすので、あたかもお詫びが魔術的な効果を持つように、外国人には見えるのであろう。上記の話で見物の群集が啜り泣いたのも、ただ子供の

ためばかりでなく、悔悛している犯人のためでもあったといつて過言ではない。むしろ群集の眼には、子供も犯人もこの際渾然一体となつて映つていたという方がより正確であろう。なおこの話は明治初年のことであり、昭和の今日ではこのように純粹な人情劇を現実に目撃する機会は極めて稀になつてゐる。しかしそれでもなお同じような心理が日本人のうちに、もしそれほど意識的でなければ無意識のうちに、働いてゐると信じられるのである。

(土居健郎「甘え」の構造」より)

〔注〕超自我：精神分析の用語。無意識・自我などとともに、精神を構成するとされる、良心の機能を営むもの。

前に説明した「すまない」…筆者は問題文の前の部分で、「すまない」という言葉は元來、動作や仕事に「済む」の否定形「済まない」である、という考えを展開してゐる。

ベネディクト：Ruth Benedict(1887-1948)。アメリカの文化人類学者。

ラフカディオ・ハーン：Lafcadio Hearn(1850-1904)。小泉八雲。作家・英文学者。一八九〇(明治二三)年来日。

問一 傍線部「罪悪感の中では裏切りの心理が痕跡に留まり、強く意識されることがなくなつてゐる」理由の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 社会の強い意志に背くのは罪だが、キリスト教的文化の中では、神と個人の関係が中心であるから。
- b 超自我に背くという罪の自覚があるのは事実だが、それ自体が心の役割の一つとみなされるから。
- c 自分自身に背くという罪の意識は、個人が前面に出された結果、育つた環境による影響が付随的なものになるから。
- d 役割が減少したとはいえ、心理的な集団に背くのは罪ではあるが、それは無意識の領域のことだから。

問一 傍線部2「罪悪感は人間関係の函数である」について、筆者の考えを示す具体例として、不適切だと思われるものを次の中から一つ選べ。

a 友人Aは進路の問題に関して以前から父親との確執に悩んでいたが、母親が亡くなったことをきっかけに故郷に帰り、家業を継ぐことを決心した。

b 地方から東京にでてきたばかりのサークルの友人Bを励ましたため映画に行く約束をしたが、当日友人Bはことわりの連絡もしないまま、約束の場所に来なかった。

c 父親の知人の紹介で希望する会社に就職することができた友人Cは、従事している仕事に興味をもつことができなくなつたが、辞めることもできず悩んでいる。

d 知り合いのDさんは、両親を幼い頃に失つたこともあり、苦労しながら育ち、現在の家庭を築いたが、仕事がいつても忙しく家庭を省みる暇がないことを悔いている。

問三 傍線部3「すまない」という言葉がその場合の罪悪感の告白として最もふさわしいものとなる「理由の説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 相手との関係において、抑えていたことを包み隠さず表現することを示しており、それを詫びることが大事だから。

b 相手との関係において、日本人特有の人情に反することをあらわし、その罪を償うことは決してできないと捉えらるから。

c 相手との関係において、背信を意味し、交流の修復不可能な崩壊を悔いることになるから。

d 相手との関係において、やるべきことをやっていない証であり、迷惑をかけたという気持ちを伝えなければならぬから。

問四 傍線部4「裏切りに発して謝罪に終るといふ構造」の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 他者との関係性が基礎となつているので、お互いの決め事を逸脱したと感ずることは、その事実を反省し詫びるといふ行為と表裏一体になつていゝる。

b 所属する特定集団が重要なので、集団内の規律を犯しただけでなく、普遍的倫理に背いたといふ思いがあつて初めて詫びる行為になつていゝる。

c 外面的行動規範に関する問題なので、禁止事項を守れなかつたといふ気持ちは一般的に抑えることはできず、その段階からすぐに詫びるといふ行為が生まれることになる。

d 個人の考え方が焦点となつていゝるので、許されることではなかつたと思ふことは、普通それを悔いゝることになり、その延長線上に詫びる行為がある。

問五 傍線部5「日本人の罪の意識は乏しいといふ俗説の原因となつていゝるのかもしれない」の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 日本人に独特の謝るといふ現象が西洋人の目には特異に映つたので、日本人は過ちといふ明確な概念自体をもたないといふと解釈してしまつた。

b 日本人が謝る姿勢は多くの西洋人にとつては感心すべき事実であるにもかかわらず、一般的に日本人の文化はキリスト教的文化とは相容れないといふ捉えてしまつた。

c 日本人が謝ることによつて仲直りしてゝるのを目にした西洋人は、日本人は常時厳しさを要求する神の概念をもたないといふと考へてしまつた。

d 日本人の赦しの思想が謝ることに依拠してゝると気づいた西洋人は、日本人にはすでに宗教的寛容の精神があると理解してしまつた。

問六 傍線部6「西洋人の心理の不思議さについても同時に示唆している」とはどういうことか。本文の内容に沿ったものも適切な説明を次の中から一つ選べ。

a 過失にいたった事情の説明よりも謝罪の方が大事であるのは理不尽だと考える西洋人の気持ちは、仮に自分に非があると感じてても謝罪を好まない理不尽さも示している。

b 謝罪の言葉が、非を咎める人に突然の変化をもたらしことに不信を覚える西洋人の感性は、罪の文化における謝罪への不信も示している。

c 「すまない」の本来の意味が謝罪になることを奇妙だと感じる西洋人の心情は、特別な場合に限り謝罪するという奇妙さも示している。

d 謝罪さえすれば不備も見逃すという役人の対応が不可解だという西洋人の捉え方は、重大な過失がある場合にも謝罪しないという不可解さも示している。

問七 傍線部7「日本人の罪に対する態度を突に見事に描きだしている」のは、ハーンが取り上げたエピソードのどのような点だと考えられるか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 突然被害者の子供に会った犯人が、即座に自分が奪った命の重さを感じ取っている点。

b 被害者の子供に会ったのが群集の前であったことから、犯人が犯したことの重大さを実感した点。

c 犯人の自己弁護が、被害者の子供に詫びることをとおしてなされている点。

d 犯人が被害者の子供にただひたすら赦しを請い、それが群集の共感を呼び起こした点。



問八 傍線部8「自分も実はこの子供と同じくみじめであることを悟った」と筆者が考えた理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 償いきれない罪を犯した犯人は、不幸を自覚できずに泣く子供をとおして自分の悲惨を自覚しているから。
- b 自分の意に反し罪を犯した犯人は、不条理にも父を奪われた子供同様、結局意志以外のものにあやつられているから。
- c 罪を犯したために死んでいこうとする犯人は、自分で自分をあわれみながら子供に許しを請おうとしているから。
- d 犯した罪を心から悔いる犯人は、何も理解できない子供に対してすら正直に謝っているから。

問九 傍線部9「甘えられた義理ではないが、しかし許してほしいという意志表示」に関し、文中の意味に沿った具体例としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 不正な政治献金問題で起訴された政治家Aは、報道陣に対して自己弁明を行った。
- b 殺人の罪で捕まった犯人は、警察の取り調べに対して涙ながらに犯行を自白した。
- c 一週間という約束で貸した本を一日遅れで返送してきた友人Cは、電話でそのことを詫びた。
- d 経営困難に陥っていた町工場の社長は、従業員の様々な努力に謝意を表した。

問十 本文における筆者の考えとして適切なものを、次の中から二つ選べ。

- a 純真さに触れると誰もが感動するが、さらにそれは、罪を犯した者の心をも変えてしまう力もっている。
- b 衷心からの謝罪は、どんな凶悪犯に対してであろうとも、許してあげたいという気を起こさせるものである。
- c 親しい間柄にある者との関係において、日本では特に、背信行為後でなければやつたことの重さを自覚しない。
- d 謝る行為は、意識の深奥で不思議な力をもつことになり、精神世界の大逆転を惹起<sup>じゅうき</sup>することになる。
- e 総じて日本人は、会社の上司に対してよりも、自分の親に対し罪の意識を感じる機会が多い。
- f 罪の意識は、いかなる場合であろうとも、他人の期待に反する行為を行うことから生じると考えうる。

二

次のAは、明治二十二年に刊行された数学者藤沢利喜太郎の『生命保険論』からの抜粋、Bはこの書に対する菊池大麓の書評である。これを読んで、後の問に答えよ。

A

夫は外に出て業を営み、婦は内に在りて家を治め、老人は子供を学校に伴ひ、一家数口の生計は主人一個の才能技芸に依る場合に於いて生命保険の必要欠くべからざる亦多言を要せざるべし。然れど富者にあつては生命を保険するの必要なきか。否、生命保険は富者のために最利益あるものなり。その故を如何といふに社会中貧困の極は禍乱となるに際し、直にその害毒を被むるは富者なれば、生命保険を普及せしめ、以て国民の貧困に陥るを予防することは、富者の特に尽力すべきことなり。

而して生命保険事業を拡張するには、被保人の数一人も多からんことを要す。故に富者が生命を保険するときは、直接の損得なくして、間接に莫大の利益を受くるものにして、則ちこれ富者も亦、生命を保険せざるべからざる所以なり。

生命保険は長生幸福を得る者、相共に若干の金を損ひて短命の不幸に遭ふ者を助くる法なれば、宛も健康の人は縁もなき病人の為に金を損する如くなれど、さにあらず。既に生命保険を托して長生するときは、その間死後の心配を知らずして、月日を送ることなれば、不幸短命の人に恵みたる金額は、この年月間安堵して業に就くこと得たる安心料と看做すべきものなり。

(藤沢利喜太郎『生命保険論』「生命保険の効用」より)

B

この書は、生命保険事業の性質を詳らかにせり。故に独り生命保険事業に従事する人々の為に六韜二略とも称すべきものたるは言ふまでも無く、被保人たらんとする者も亦参考すべき善良の書なり。而して余の考ふる所に依れば一家の主人たる者は、その貴賤貧富を問はず必ずその生命を保険するの義務有るものとす。その理由は本書中生命保険の効用と題する章中に詳

なり。然れども、その保険を為すに当りて適當の会社を撰えらびこれを托せざれば、「頼む樹蔭に雨漏り」て数年の用心なま忽ちち  
と為ること有らん。然らば、何に依りてか会社の適當なると否を判すべきや。夫れ生命保険には確固たる数学上の基  
礎有り。この数理に背く所の規約を以て立てたる会社の早晩倒産するは、その確なること恰も人の早晩死することの確なる  
が如し。この数理およびその応用は、本書の最緊要なる部分にして、氏は頗る簡易にこれを説明され、別段数学を知らざる  
ものにてても、その大意を解し得べく、代数学を学びたるものは充分にこれを解するを得べし。年金計算の簡易なる式の如き  
は、吾輩の感服する所なり。而して、氏が數多の材料を参考し、非常の勞力を以て得られたる本邦死亡生残表、および本邦人  
平均寿命表の如きは、頗る面白きものなり。吾輩は唯氏が第七表を調製されたる折衷平均法の大略を  
述べられざりしを遺憾とす。

近來本邦に於ても、一般の会社熱に誘はれ、生命保險会社も次第に起らんとするもの如し。その未だ甚だ多からざる中に  
政府に於て生命保險の数理に基づき、これが條例を設け、その取締を為さざる時は、數多の会社中には競争の為に無法に保險  
掛金を低くし、一時の勝を制せんとし、或は配当を増さんが為に數理上必要だけの積立金を為さず、遂に倒産するに至ること  
無しと言ふべからず。先年英國に於て二三の大保險会社倒産の時、非常の災害を社会に及ぼしたる二の舞を為す勿らんこと、  
余の期望に堪へざる所なり。而して、條例は政府の事なり。現今自治の行はるる世の中に在りて、志有る者は、自からかくの  
如き問題を判断するの力を養ふべし。今に於て本書の出版有る、豈偶然ならんや。

(菊池大蘆「生命保險論」より)

〔注〕六韜三略…中国の兵書の名。

氏が第七表を調製されたる折衷平均法…第七表は、當時の日本における「死亡生残表(出生からの年数ごとに見た生存者の  
比率を示したものの)」で、藤沢利喜太郎がすでに存在した複数の表を平均し、作成  
している。

問一 傍線部1はここではどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 自分たちを守ってくれると信頼していたものにはころびが生じる。
- b もとから頼りになるか不安だったものが当然のごとく破綻する。
- c 依頼するしか方法のなかったものが結局役に立たない。
- d 突然の事態には頼みの綱も耐えきれない。

問二 Xに入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 画餅
- b 蛇足
- c 矛盾
- d 杜撰

問三 傍線部2について、以下のI・IIに答えよ。

I 筆者は「会社の早晩倒産する」ことをどのようにとらえているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 代数学を学んでいないものでも人が死ぬのを理解できることと等しい。
- b すぐに死んでしまう人間もおり、経営が確実に傾いてくるために生じる。
- c 人間は死すべきものであるということと同じくらいに確かである。
- d 数学上の基礎に基づけば、人がいずれ死んでしまうことを持ち出すまでもなく当然起きることである。

II 筆者が「この数理に背く所の規約を以て立てたる会社の早晩倒産する」ことは確かであると述べる理由としてどのようなことが考えられるか。その例としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 海外においても保険会社の倒産が起こる状況のなか、日本では適正な年金計算を行う必要があるから。
- b 数理上の基礎があることも理解せずに保険会社を経営すれば、社会からの批判を免れられなくなるから。
- c 無計画な経営を行えば、最終的には政府が規制に乗り出す結果を招くから。
- d 保険の掛け金に対して配当の額を適切に設定しなければ、経営が立ちゆかなくなるから。

問四 傍線部3には、どのような状況が該当するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a その業種に必要な知識をおろそかにしても、会社を設立することだけを優先する。
- b 長期的な経営の展望を持たないまま、顧客を多く集めようとする。
- c 相互に牽制し合い、特定の企業が優位に立つのを避ける。
- d 政府の規制がない以上、競争を激化させることをいとわない。

問五 傍線部4はどのようなことを意味するか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 英国の大保険会社の倒産は、日本にも非常な損失を与えたが、これを繰り返すことがないよう希望するばかりである。
- b 英国で大きな保険会社が倒産し、ふだんでは考えられない被害がもたらされたのと同じ事態を日本で繰り返すことが無いよう望んでやまない。

c 英国における大保険会社の倒産は、必ず日本の保険業界にも影響を及ぼすもので、そのような事態に直面するのは、我慢がならないことである。

d 英国で大きな保険会社が倒産し、社会に損失を与えたことは、対策なしに傍観することのできない出来事である。

問六 傍線部5のように筆者が述べるのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 保険会社に関わる条例を、政府ではなく、みずから提案していくべき時期が来ており、『生命保険論』がいま出版されるのは当然のことと考えられるから。

b 西洋においても倒産が起こりうる生命保険業を運営していくために、経営上必要な数理的根拠が示された『生命保険論』の出版がこれまでも世間で待ち望まれてきたと考えられるから。

c 物事を政府に任せきりにするのではなく、自ら考え判断すべき時代に『生命保険論』が出版されたのは、時宜を得たことと考えられるから。

d 生命保険業に志ある者がいまだ少ない現状において、自ら問題のありかを判断するために役立つ『生命保険論』が出版されたのは、偶然とは考えられないから。

問七 波線部Aのように筆者が述べるのはなぜか。Aの『生命保険論』の本文を踏まえながら、その理由として適切なものを次の中から二つ選べ。

a 国民の貧困を防ぐためには、生命保険への加入がその家の貧富の差にかかわらず必須であると考えられるから。

b 富者は、生命保険に入ることによって、間接的に社会の安定を確保することができ、またそこから金銭的利益を得ることも合わせてできるから。

c 生命保険は、縁の無い病人のために掛け金を支払うように見えるが、健康な人間にとっても安心して事業に専心する支えとなるから。

d 家計を主人一人が支えている場合、主人が病気などにより働くことができなくなった場合、生命保険なしでは一家の経済を支えることができなくなるから。

e 生命保険は、相互扶助の精神に基づくものであり、その是非を問うまでもなく必要な制度であると考えられるから。

問八 Bの書評は、『生命保険論』という書籍のどのような点を評価しているか。次の中から適切なものを二つ選べ。

- a 単独で生命保険会社を運営する者に対して、他社よりも利益を上げる方法を示してくれる良書である点。
- b 保険に加入する者がどの会社を選ぶかを考える際に、その判断材料となりうる内容を含む点。
- c 生命保険を成り立たせるシステムをもつばら数理的な側面から記述している点。
- d 被保険者に対して、突然襲ってくる不幸をどう乗り越えるべきか解説している点。
- e 保険業を営む人や会社に対して、経営の指針を示す優れた書籍である点。



三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

『和泉式部日記』の冒頭も「夢よりもはかなき世の中を、歎きわびつつ明かし暮らすほどに」と書きはじめられている。又、日記ではないが、殆んど歌日記と呼んでいい『建礼門院右京大夫集』のおわりちかく、「かへすがへす、憂きよりほかの思ひ出なき身ながら、年はつもりて、いたづらに明かし暮すほどに、思ひ出でらるることどもを、すこしづつ書きつけたるなり」とその私家集を呼び「今や夢昔や夢とまよはれていかに思へどうつとぞなき」と世のはかなきを歌わずにはいられなかった。いずれも、現実に深い幻滅を味わったものが、その身にそくしてつけたのが日記なのである。換言すれば生を深く、あるいは高く夢見たものたちの生活記録と呼んでいいのである。だからその基底には、生への苦さ、束の間、幻のごとくとおりました甘美な過去の出来事への哀惜がただよっている。

いうまでもなく日記はあくまで「私」の世界に属する。本来、「公」的な記録に対して「私」的な記録があらわれるのは十世紀以後といわれるが、『土佐日記』が「公」人としての人間の「私」的感慨を、しかも「女」の記録という形に代えてつづった点考えただけで、その意味は明瞭だが、その上、最後に「とまれかうまれ、疾く破りてむ」と破棄をいそぐ感があるのも、十分に右の事実を裏書きするであろうし、同じ事は前述した『建礼門院右京大夫集』の冒頭に「我が目ひとつに見むとて書きおくなり」として「われならでたれかあはれと水茎の跡もし末の世に伝はらば」と書かずにおられなかったことも、日記の「私」性を如実にかたつていよう。

物語をしりぞげ「私」性の内面に執し、幻滅を培養土としながらもリアリティックに日々の出来事をする中世のこうした日記を考えると、近代の「私小説」にもこの性格が十分に継承されていると言わずにはいられない。「私の経験をいへば、私小説の起りは、遺書を書くのと同じ気持から書きはじめたものだ（上林暁「私小説作法」）と考え、経験を書いても「自分にとって痛切に感じられることは、私の経験の中に含める」（庄野潤三「自分の羽根」）というような言葉にも端的にそれがあらわれないよう。

たとえば『蜻蛉日記』のなかで道綱母が他人の苦しみ<sup>3</sup>にふれつつ「身の上のみする日記には入るまじきことなれども、悲しと思ひ入りしもたれならねば、記しておくなり」と書いていることと同じである。それは「私」を離れ人間の悲しみを痛切に造型したいという心情から発しているといつてよい。

ところで日記という形態はたしかに日付をしるしてゆくという点で時間的継起をとつてはいるが、しかしむしろそれは小説的な筋という時間とはことなる。つまりその日の出来事、感激をしるしながらも偶然性の支配はまぬがれず、結果としては日々の出来事に因果関係はなく、描かれるかたちも、一日の時間を枠として考えれば、さながら一枚の絵<sup>タクロ</sup>となる。換言すれば一日の叙述はそれ自体として空間化された風景のようにあらわれるのである。それは読者の視野に一日一日、おのおのがことなつた絵となつてあらわれる。<sup>5</sup>これらの絵の継起がいわば日記文学の実体なのであろう。本来、虚構をもうけ、現実から任意の部分<sup>6</sup>をきりとつて契機とし、想像力によつてそれをふくらまし、時間の秩序を与えながら別の空間をつくるという西歐的なスタイルをもつことの少い日本の文学には、こうした日記文学の方が適しているとも言えよう。

一枚の絵は、言ってみれば一日の時間をえがく、リアリズムの所産であり、虚構をまじえず、現実にしたがつてうみ出されるものである。私小説はこのようなスタイルをいわば基底に持っているのではなからうか。たとえば『蜻蛉日記』の中で、西の宮の左大臣が流されるという話で大騒ぎの都を描く<sup>くだ</sup>条りの次に、五月雨<sup>さみだれ</sup>のふる頃、物忌みもあつて長精進をしている「あの人」との歌の贈答があり、そのあとは「あの人」と子供の御岳詣で、ついで左衛門督が献上する屏風<sup>びやうぶ</sup>絵のシーンが絵巻物のように描かれ、さらにはわが子の賭弓<sup>かけゆみ</sup>の話がつづくといった具合である。それらはいずれも一枚の絵の重なりのようにあらわれてくる。ここで人生は連続的ではなく、時間の中で、一つのシーンがおのおの空間的に自立して表現されているのである。

日付は逆にこれらのシーンの区切りを示すにすぎないと言つてよい。このように考えれば、かりに『蜻蛉日記』のような日付をもつた日記でないとしても『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』<sup>6</sup>でさえ、その短かい挿話<sup>エピソード</sup>の連鎖が、構造的には同じような質をもっていると言つこともできるのである。

(「饗庭孝男」喚起する『織物』)

問一 傍線部1「その意味」とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 日記が個人の立場で記述した、きわめて「私」的なものであること。
- b 日記は女性の書くもので、男性が書く場合は女性に身をやつして書くものであること。
- c 日記は「公」の記録に対して、恥ずべきものであること。
- d 日記がその成立からして女性の書くもので、男性の書くものではないこと。

問二 傍線部2について、「幻滅を培養土としながら」とはどのようなことを言うのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 自らの生が夢なのか現実なのかはつきりしない状態にあることを、日記を書く動機として、ということ。
- b 世の中をはかれないと思い、自らの辛い体験を日記を書く基盤として、ということ。
- c 幻のように通り過ぎた甘美な思い出を、日記を書く推進力として、ということ。
- d 理想を求めたが実現しなかった後悔を、日記を書くきっかけとして、ということ。

問三 傍線部3について、「私」を離れ人間の悲しみを痛切に造型したい」とはどのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 「私」性を取り除いて、「公」の記録として通用するかたちで書きたいということ。
- b 個人的な立場に立たないで、広く一般的な立場に立つて客観的に記述したいということ。
- c 自分の心の傷みを抑えて、知人の心の傷みをリアスティックに文字化したいということ。
- d 自分のことを書くのではなく、他人の内面を自分のことのように感じとって表現したいということ。

問四 傍線部4について、「小説的な筋という時間」とはどのようなことを言っているのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 虚構することを前提にして、時間を交錯させること。
- b 作品内の出来事を、時間軸に沿って並べること。
- c 現実には想像力を加え、作品の時間に秩序を与えること。
- d 出来事の時間上の前後関係よりも、出来事の因果関係に重きを置くこと。

問五 傍線部5について、「絵の継起」とはどのようなことを言うのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 一日の叙述自体が一つのシーンとなり、それが次々と重なってゆくこと。
- b 一日の叙述自体が一つのシーンとなり、それが次々と因果関係をもってつながってゆくこと。
- c 一日の叙述自体が空間化された風景のようになり、それが自立して新たな空間に変貌してゆくこと。
- d 一日の叙述自体が空間化された風景のようになり、それが時間の流れのなかで秩序立ってくること。

問六 傍線部6について、「構造的には同じような質をもっている」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 短かい挿話自体が、日記のリリズムに該当するということ。
- b 短かい挿話の一つ一つが、日記の一シーンを彷彿させるということ。
- c 短かい挿話の積み重ねが、日記の内容を秩序立ったものに行っているということ。
- d 短かい挿話による区切りが、日記の日付の機能を果たしているということ。

問七 二重傍線部「近代の『私小説』」に該当するものを、次の中から一つ選べ。

- a 城の崎にて
- b 或る女
- c 坊っちゃん
- d 青年
- e 蟹工船





11